

**論文タイトル:** An assessment of the optimal lens fit rate in keratoconus subjects using three-point-touch and apical touch fitting approaches with the Rose K2 lens(ローズ K2 レンズにおける 3 点接触法と 2 点接触法を用いた円錐角膜患者への最適レンズフィット割合の評価)  
**掲載雑誌、年、巻、頁:** Eye & Contact Lens 2013;39(4):269-272.

**著者名(所属):** Romero-Jimenez M、Santodomingo-Rubido J(メニコン スペイン)、Gonzalez-Meijome JM(Minho 大学)

**概要:** 円錐角膜患者へのローズ K2 レンズのフィッティングを 2 点接触法と 3 点接触法で評価しました。ファーストチョイスのアピカルクリアランスレンズは、系統的で信頼性と再現性があり、3 点接触法の方が最適なフィッティングが得られやすいです。

ガス透過性ハードコンタクトレンズ(RGP CL)は、初期から中期の**円錐角膜**に対して最も一般的に処方され、成功率の高い選択肢です。しかしながら、これらのレンズのフィッティングは処方医にとって簡単ではありません。通常、RGP CL のフィッティングは蛍光色素のフルオレセインナトリウム点眼液を点眼し、フルオレセインパターンから最適なフィッティングのレンズを選択します。

現在、RGP CL は、主に 2 つの処方手順により処方されています:(1)フラットまたはアピカルタッチ(2 点接触法)、および(2)3 点接触法。しかしながら、ポール・ローズ先生は、[ローズ K2 レンズ](#)のフィッティングに 3 点接触法を用いることを推奨し、メーカーへの最初の注文レンズセットで 80%の成功率であることを報告しています。

本研究では、1996 年の Edrington らの CLEK 研究で述べられた最適なレンズフィッティングであるアピカルクリアランスレンズ(FDACL)を得るために必要な注文レンズの枚数を、ニップルおよびオーバルタイプの円錐角膜患者で 3 点接触法と 2 点接触法との間で比較しました。その結果、全ての症例(109 眼)で FDACL を達成するのに平均で 2.3 枚のトライアルレンズが必要でした。最適なレンズフィッティングを得る適格率は、3 点接触法で 83%、2 点接触法で 71%でした。また、円錐のタイプ別では、適格率はニップルで 81%、オーバルで 68%でした。これらの数値には統計学的な有意差はありませんでしたが、臨床的には意味のある違いでした。

このように、本研究で用いた FDACL は、円錐角膜へのローズ K2 レンズのフィッティングのために系統的で、信頼性および再現性のあるコンセプトです。本研究はポール・ローズ先生の主張を裏付けており、処方医は、2 点接触法と比較して 3 点接触法を用いると、最適なレンズフィッティングがより高い割合で得られると予想するべきです。

解説:

**円錐角膜:** 一般的に黒目(瞳)の中心部が円錐状に突出する角膜の病気です。10~20 代の若年者に発病しますが、原因は不明です。発症初期はものがぼけて見えますが、進行に従って眼鏡や通常の RGPCL での矯正が難しくなるため、円錐角膜用の特殊デザイン RGPCL が用いられます。

**ローズ K2 レンズ:** ポール・ローズ先生が開発した円錐角膜用デザインレンズ(右図)です。

[http://www.nipponcl.co.jp/item/it01\\_07.html](http://www.nipponcl.co.jp/item/it01_07.html)

